



中村俊定文庫  
文庫 18  
709  
3





俳諧發句名家類題

冬之部

十月

十月廿毎の夜まゝ一書の宛

太正

人親も旅の道もや神も月

神も月旅の道もや神も月

初冬

巨燈よ花瓶まらうらぬ初冬

無村

初冬や香たけの心程多う宿

初冬や訪人と松をよ人もり

小春

海好まや日まよふ小まの那

暁堂



平安嘉會室了編



亥子

松の葉よまきよ小鳥の入り目よ  
人の来しきりひかきぬまれ子  
太 然

達广忌

是より山をさかすまきぬまは内  
達广忌や字与代ふ不信ん  
太 然

芭蕉忌

瘦像又魂を入りて小ね可也  
もろく道は種八生等の感よ伏  
太 然

十夜

踊る世め始連りし十夜うま  
おありの女子と門をまふ十夜  
人まきし夜とよふ十夜おふ  
油灯の人のまきしよ十夜うま  
太 然

夷講

おまきし夜とよふ十夜おふ  
太 然

炉関

夷講やまきし夜とよふ十夜  
炉関やまきし夜とよふ十夜  
太 然

口切

口切やまきし夜とよふ十夜  
口切やまきし夜とよふ十夜  
太 然

時雨

口切やまきし夜とよふ十夜  
口切やまきし夜とよふ十夜  
太 然

時雨

口切やまきし夜とよふ十夜  
口切やまきし夜とよふ十夜  
太 然

茶村

一 ぼろいおとさて人よききま  
 樓町ゆきばろは煙余をよき  
 禅寺の時下はの免小時ゆ  
 二 嘘を有およふ金糸  
 化さるま金筆うん寺は時ゆま  
 舟はもたけ古江の  
 狗人の懐れこりよ文  
 定む灯の依田はまぬあはゆ  
 著る舟はよまそあけ  
 知町も自在の舟よ吹う  
 梅とよ小粒よあけ  
 初町の

名よのやまよ  
 時中よまき  
 旅の果れあはる  
 さく越きや涼  
 了り  
 多るお田よは  
 下馬は  
 時ゆらん屋上は  
 うつしほしぬ  
 あらんゆ  
 うらむ

霜

リききぐーんきつてけいさく  
 勝るけいん果のきおやあまのわー  
 戦の起るうきおれさう一  
 ちりちりのきおやう海足の鼻のき  
 ゆくあまのさかろきおやきおのき  
 きーあむれきおろきおあむし  
 ちりちりきおさうきおのき  
 ちりちりけいん果のきおけきおのき  
 おのきおあむれきおのきおけきお  
 ちりの上もきおろきおのきおけきお  
 きりりちりちりきおのきおけきお

太  
 我  
 太  
 我  
 太  
 我  
 太  
 我  
 太  
 我  
 太  
 我

初雪

半柄ーはせびんきおの二葉お  
 ちりちりきおのきおのきおのきお  
 初雪のきおのきおのきおのきお  
 初雪のきおのきおのきおのきお  
 初雪のきおのきおのきおのきお  
 初雪のきおのきおのきおのきお  
 初雪のきおのきおのきおのきお  
 初雪のきおのきおのきおのきお  
 初雪のきおのきおのきおのきお  
 初雪のきおのきおのきおのきお  
 初雪のきおのきおのきおのきお  
 初雪のきおのきおのきおのきお  
 初雪のきおのきおのきおのきお

太  
 我  
 太  
 我  
 太  
 我  
 太  
 我  
 太  
 我  
 太  
 我

初氷

初氷のきおのきおのきおのきお  
 初氷のきおのきおのきおのきお  
 初氷のきおのきおのきおのきお  
 初氷のきおのきおのきおのきお  
 初氷のきおのきおのきおのきお  
 初氷のきおのきおのきおのきお  
 初氷のきおのきおのきおのきお  
 初氷のきおのきおのきおのきお  
 初氷のきおのきおのきおのきお  
 初氷のきおのきおのきおのきお  
 初氷のきおのきおのきおのきお  
 初氷のきおのきおのきおのきお

太  
 我  
 太  
 我  
 太  
 我  
 太  
 我  
 太  
 我  
 太  
 我

落葉

落葉のきおのきおのきおのきお  
 落葉のきおのきおのきおのきお  
 落葉のきおのきおのきおのきお  
 落葉のきおのきおのきおのきお  
 落葉のきおのきおのきおのきお  
 落葉のきおのきおのきおのきお  
 落葉のきおのきおのきおのきお  
 落葉のきおのきおのきおのきお  
 落葉のきおのきおのきおのきお  
 落葉のきおのきおのきおのきお  
 落葉のきおのきおのきおのきお  
 落葉のきおのきおのきおのきお

太  
 我  
 太  
 我  
 太  
 我  
 太  
 我  
 太  
 我  
 太  
 我



冬木立

木立りやあきまきり月環り  
 望くよりひらく寺やあき木立  
 おろゆる寺のあき火やあき木立  
 あきあき馬一すらたり糸衣  
 袴けり糸衣あき木立  
 嵐谷あきおきり枯柳  
 笑うけりあきあき枯柳  
 枯柳や唐ハ志女の髪切り  
 水原の目あき枯尾花  
 沖くあきおきり枯尾花  
 草あき切り枯り花の教  
 太我  
 太我  
 系文  
 太我  
 系文  
 太我

枯尾花

枯柳

枯菊

枯草

枯芦  
枯野

日あきりけきあきり枯草  
 あきりや井の中あきり枯草  
 芦あきり位あきり人江の東  
 あきあきあきあき枯野  
 りりあきあきあきあき  
 り馬の人をあきり枯野  
 山あきりあきあき枯野  
 鳥あきりあきあき枯野  
 石あきりあきあき枯野  
 三日あきりあきあき枯野  
 わりりあきあき枯野  
 太我  
 太我  
 系文  
 太我  
 系文  
 太我  
 系文  
 太我

冬粘

冬粘（粘り）は、冬に咲く花。葉は厚く、花は赤い。太我

枇杷花

枇杷の花は、秋に咲く。葉は光沢があり、花は黄色い。太我

帰花

帰花は、冬に咲く。葉は狭く、花は赤い。太我

水仙

水仙は、冬に咲く。葉は細く、花は白色い。太我

寒菜

寒菜は、冬に咲く。葉は細く、花は白色い。太我

茶花

茶花は、冬に咲く。葉は細く、花は白色い。太我

麥葎

麥葎は、冬に咲く。葉は細く、花は白色い。太我

綱代守

綱代守は、冬に咲く。葉は細く、花は白色い。太我



十鳥

樞の傍又中河代のわらわら  
 妻やや際よりわらわら河代寺  
 子を啼く啼きしる女三郎  
 立流又足させしりりなき外  
 本戸一はる妻や荒井此文も  
 浦よきうらもあもかきもおれ  
 湯あうら此船はこしりや村よき  
 後しりあふのさるや小おらう  
 ちりあふ平きりしはふ千もさる  
 便毎のうらうらさるふもさる  
 ちりあうら二十七日の月けし

吃  
系  
太  
村  
村

鴨鳴

鷺鳴

夕のうらさるをけけりる千もさる  
 ちりあうらさるかいさるさるさる  
 さるわらわらさるさるや二階よけさる  
 啼のけりさる下りさるや小おらう  
 けりさる水を啼きん川よき  
 けりさるうらさる後けりさるさる  
 さるけりさる上下さる人さる啼き  
 けりさるさるけりさるさるさる  
 うらさるけりさるさる男よけりさる  
 けりさる又さるけりさるさるさる  
 けりさるさるさるさるさるさる

吃  
系  
太







湯婆

おも〜ろうら壺つる中ぬの厚皮中  
動りゝ起わつる湯婆部  
太 絨

埋火

暖甫もあゆりて表のきつた  
埋火は猫骨よ〜を結ひ〜  
太 絨

埋火のあり〜ハス〜母如例  
うつ〜火はねを〜ひ〜  
太 絨

埋火や身お〜あ〜  
埋火や月口よ〜  
太 絨

火燧

ほよれや火燧の中も〜  
ほよれや〜の〜水の〜  
太 絨

〜人て〜人〜  
太 絨

火桶

火桶〜巨燧〜  
火桶のり灯も〜  
太 絨

うきくの額も〜火桶〜  
文りや〜火桶  
太 絨

寒井

水〜の〜  
水〜の〜  
太 絨

井の〜  
井の〜  
太 絨

水〜も〜  
水〜も〜  
太 絨

各根〜  
各根〜  
太 絨









雲英

水

海草のふたをひらきぬきしり  
 中まれば生きたるものぞ  
 躍ふ一又はくまはたまたま  
 くの燈のあかりにたしきは  
 夜更ぬきおぼの毛ちりけり  
 初くやまの雲すなはちくみ  
 くらうお栖後よさけるゆき  
 少つく芦ふふみや寺の門  
 川子流も山打もあふり  
 少くお下りし上る履  
 ほとりきらふ果てはきり水くま

太我  
 系文  
 太我  
 系文  
 太我  
 系文  
 太我  
 系文

冬月

少ゆきをけりし時  
 冬月や霜またのり  
 大をうつるのねら  
 冬月や霜またのり  
 冬月や霜またのり  
 冬月や霜またのり  
 冬月や霜またのり  
 冬月や霜またのり  
 冬月や霜またのり

系文  
 太我  
 系文  
 太我  
 系文  
 太我  
 系文  
 太我

葱

葱の上に又うろたひ月  
うろたひ葱うろたひ月

草村

鷹

鷹うろたひうろたひ月

草村

暖鳥

暖鳥うろたひうろたひ月

草村

鯨

一けん 鯨うろたひ月

太我

鯨うろたひうろたひ月

草村

乾鞋

乾鞋うろたひうろたひ月

草村

乾鞋うろたひうろたひ月

草村

蛸

蛸うろたひうろたひ月

草村

藥食

藥食うろたひうろたひ月

太我

王子酒

王子酒うろたひうろたひ月

草村

輝

輝うろたひうろたひ月

草村

師走

師走うろたひうろたひ月

草村

師走うろたひうろたひ月

草村

臘八 臘八や臘の玉やち 粥 粥 菓 文

寒 垢 誰 寒くはるは耳の水や 勢ひる 呪 文

寒 念佛 寒くはるは尻をさむる ころころ馬 二 村

地 灯 地灯の火やふらふら 寒 念佛 三 村

送 子 送子や 送る 寒 念佛 四 村

寒 色 寒くはるは 教方との 枕 五 村

衣 呪 衣の呪ふは 魚の 寒 念佛 六 村

年 越 年とらへ 門表を 寒 念佛 七 村

欲 と 不 鬼 不鬼は 足 寒 念佛 八 村

厄 拂 厄の 寒 念佛 九 村

太 杖 太杖

禪 二百とて 厄 杖

宝 舟 宝舟は 舟 杖 十 村

年 木 樵 年木の 樵 杖 十一 村

煤 拂 煤を 拂 杖 十二 村

大 名 大名は 杖 十三 村

小 僧 小僧は 杖 十四 村

う さ 鬼 鬼は 杖 十五 村

登 登 登 杖 十六 村

太 杖 太杖

太 杖 太杖

太 杖 太杖

節季候  
年暮

行年  
除夜  
年籠

おもしろい生一しりしりなうらなうらなうらなうら

そりそりや白つまき小風呂

利とくすまのうらなうらなうらなうら

西舞のうらなうらなうらなうら

電灯戸のうらなうらなうらなうら

音あいの報いえせう年のうら

うらなうらなうらなうらなうらなうら

りくくや馬およそい半れ角

おもしろくは風吹よ除夜のうら

年のうらなうらなうらなうらなうら

子村

太城

子村

子村

子村

子村

子村

子村

子村

